

平成 14 年 12 月 20 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

アゼルバイジャン領南カスピ海海域 ACG プロジェクトに係わる権益譲渡について

国際石油開発株式会社(インペックス)は、本日 12 月 20 日に、アゼルバイジャン領南カスピ海海域において、7 カ国 10 社から構成される国際コンソーシアムである AIOC【Azerbaijan International Operating Company】が開発・生産を推進する Azeri(アゼリ)油田、Chirag(チラグ)油田、Gunashli(グナシリ)油田を含むいわゆる ACG プロジェクトにおいて、本プロジェクトの権益保有者であるロシア共和国ルークオイル社より同社が保有する 10%の権益全部を譲り受けることについて同社と合意に達し、モスクワにて譲渡契約に調印した。

ACG プロジェクトは、1997 年に Chirag(チラグ)油田より生産を開始し、現在日量 12 万バレルで生産中であり、今後段階的に増産し、2006 年には日量 50 万バレル、2008 年には日量 100 万バレルの水準に達する見込みである。

生産された原油は、AIOC により建設されたパイプラインにより輸送・出荷されており、生産開始時には、ロシアを経由してノボロシスクに至るルート(北ルート)を使用し、現在はバクーから黒海のスプサに至るルート(西ルート)を使用している。2005 年の完成をめざし本年 9 月に建設に着手した BTC(Baku-Tbilisi-Ceyhan)パイプラインが完成した後は主として同パイプラインで地中海のジェイハンまで輸送し、同地から出荷する計画である。

本権益譲渡は、アゼルバイジャン国営石油会社 SOCAR および同プロジェクトの各パートナーの承認を必要とし、2003 年上半期中には全ての手続きが完了する予定である。

当社のカスピ海地域への取組みについては、同地域をターゲットエリアと定め、これまで、積極的に事業を展開してきた。具体的には、

i) 1998 年にはカザフスタン共和国北カスピ海沖合鉦区の権益を取得し、2000 年に同鉦区で超巨大なカシャガン油田の発見に成功し、本年 6 月には同油田(推定可採埋蔵量 70 億～90 億バレル)の商業発見宣言をおこない現在開発計画を策定中である、

ii) 本年 9 月より主として ACG プロジェクトの原油搬送ルートとして 8 か国 10 社より構成される国際コンソーシアムが推進するバクーからグルジア共和国トビリシを経由し地中

海に面するトルコ共和国ジェイハンに至る総延長 1,760km におよぶ BTC パイプラインプロジェクトに、北カスピ海沖合鉦区カシャガン油田から生産される原油の搬出路を確保する目的の一環として参画している、

iii) 1998 年 12 月より日本アゼルバイジャン石油(株)に資本参加し、同社を通じてアゼルバイジャン領カスピ海海域鉦区で探鉦事業を推進している。

このように同地域ではこれまで着実な成果を上げてきており、このたび既発見・生産中の ACG プロジェクトの権益を取得することにより、カスピ海域が当社にとって、インドネシア、オーストラリアに続く第 3 のコアエリアと位置付けられることとなることが期待される。

今回の権益譲渡を契機として、ロシア第一の石油会社であるルークオイル社と当社は、今後、ロシア内外での協力関係を強化することで意見の一致を見ている。

※) 補足説明

1.アゼルバイジャン領南カスピ海に位置する既発見油田である Azeri 油田、Chirag 油田及び Gunashli 油田深海部(水深 150m－400m)を含む ACG プロジェクトを対象とする PS 契約が 1994 年 9 月に国際コンソーシアム(7 か国 10 社)とアゼルバイジャン国営石油会社(SOCAR)の間で締結され、同年 12 月に発効している。

2.本プロジェクトは、アゼルバイジャン領南カスピ海海域、水深 100m－ 400 m に位置し面積は 432.4Km² である。本プロジェクトでは既に旧ソビエト連邦時代に Khezerdenizneft により Gunashli 油田(1979 年)、Chirag 油田(1985 年)および Azeri 油田(1987 年)が発見されている。

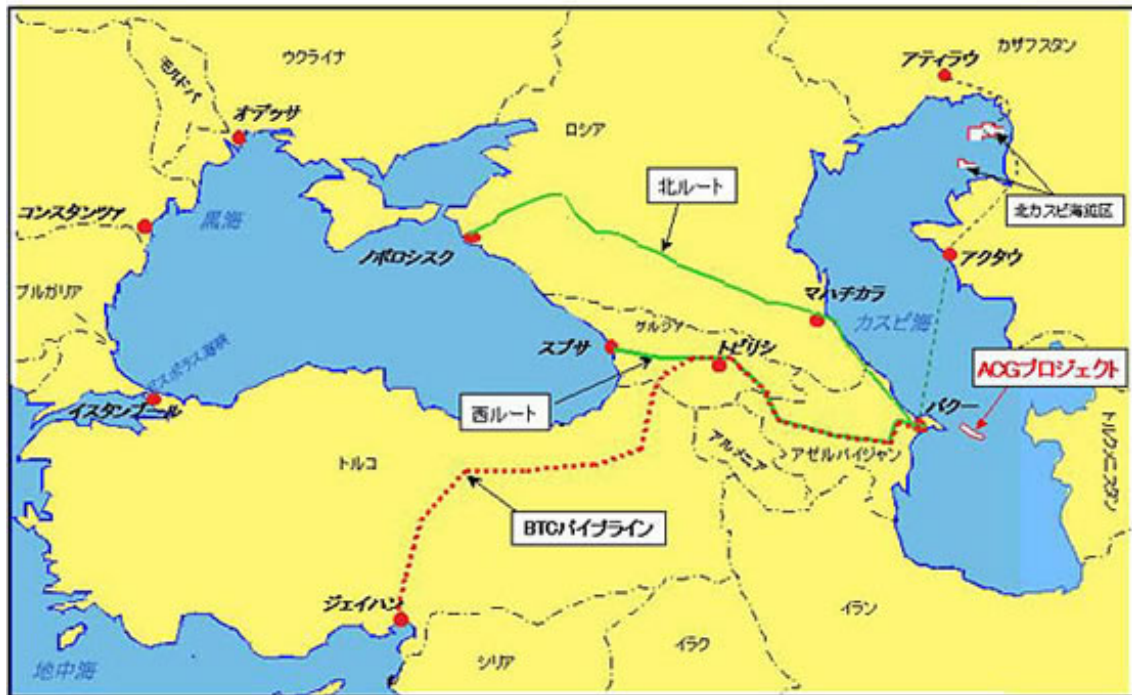
1997 年 11 月より Chirag 油田において早期生産が開始されており、2002 年 8 月末現在、生産井 12 坑によりこれまでに約 1 億 6,500 万バレルを生産している。

AIOC の本年 9 月のプレス発表によれば、本プロジェクトの可採埋蔵量は 54 億バレル程度と見込まれており、世界でも有数の超巨大油田となることが期待されている。なお、生産原油の性状は、軽質(API34°)、低硫黄の良質である。

3.本 ACG 油田の開発・生産を推進する国際コンソーシアムは現在 7 か国 10 社で構成され、今回当社に権益譲渡するルークオイル(Lukoil)社(10%)の他、BP 社(権益比率 34.1%、オペレーター)、UNOCAL 社(10.3%)、SOCAR 社(10%)、Statoil 社(8.6%)、Exxon-Mobil 社(8%)、TPAO 社[トルコ国営石油会社](6.8%)、Pennzoil 社(5.6%)、伊藤忠石油開発(3.9%)、Delta-Hess 社(2.7%)となっている。

4.なお、当社は、子会社インペックス南西カスピ海石油(株)により本事業を推進することとしており、同社に対する石油公団からの出資および債務保証による支援を得る予定とし、また、政府系金融機関を始めとする邦銀の協調融資を期待している。

・ ACGプロジェクト



ACGプロジェクト拡大図

